

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇「自分の学びをプロデュースできる子」の育成を目指して、3か年計画の研究で子どもが学びのコントローラーをもつために、子どもが主語になる授業を考えてきた。継続的に教師の関わりや子どもに委ねる場を考えてきたことで、共通指標アンケートの肯定的な回答の割合が全体的に高くなった。特に、「自分にはよいところがある」の項目においては、肯定的な回答が9割に近く、本研究を始める前から10ポイント以上の伸びを示している。</p>
	<p>◇共通指標アンケートの結果から、全体的に肯定的な回答が伸びてはいるが、「1日の時間の使い方を自分で考えて生活している」「自分で計画を立てて勉強している」項目においては、昨年度どちらとも7割に届いていない。子どもが家庭学習の計画表を作成する場を設けたり、家庭学習の交流を行ったりしているが、家庭への啓発も含め自学自習に対する意欲や価値を高めていく必要がある。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇共通指標アンケート「人の役に立ててうれしいと感じることがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の両項目における、肯定的回答の割合が9割を超えていることから、「他者と関わることに価値がある」という実感の高まりが感じられる。異学年による読書活動やなわとびの交流、遠足で一緒に遊んだりお弁当を食べたりする活動など、子ども同士による行事前後の相互評価の場を設定してきたことが、自己肯定感の高まりに寄与していると考えられる。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自分の学びをプロデュースできる子

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 「子どもが主語になる授業」の実現</p> <p>◇子どもが見通しをもち学び進めるために、イントロダクションを含めた教材化を工夫する。</p> <p>◇「もっと～たい」「他者と関わりたい」といった思いをもち、子どもが自ら学びをコントロールするために、教師は自らの立場を意識しながら適切に関わる。</p> <p>(2) 「子どもに委ねる場」を設定する</p> <p>◇子どもが自立して学ぶことができるよう、教師が単元を俯瞰で捉えて学びを積み上げる意識をもつ。</p> <p>◇教える場と委ねる場のバランスを工夫し、教師の立場を考える。</p>	<p>①学級活動の充実</p> <p>◇自主的、実践的に行動できるよう、学級活動の時間を保証する。</p> <p>◇全校で話し合い活動の充実を図り、自主的に活動するための土壌をつくる。</p> <p>②目的を意識した児童会活動の充実</p> <p>◇どんな学校にしたいかを明確にして、各委員会同士が教師の指導の下、連携を取りながら進めていく。</p> <p>◇クラブやふれあい活動において、相手意識をもち、自分の役割を自覚しながら活動できるよう関わる。</p>
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p>		
<p>◇主に(2)において、ICTのアプリを子どもが選択できるようにすることで、学びを深めたり進めたりする際に自己決定する場を保証する。</p> <p>◇主に②において、適宜 Google form や canva 等を用いて子ども同士で意見を集約したり集会活動に活用したりして、自主的な活動を広げるツールとする。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

